

池坊学園短大 有本 翠

○安井 和子

笠原 俊子

1. 被服構成学の指導の基礎は、着用者の体型（特に胸部の脹らみ、背部の肉付、肩胛骨、鎖骨、その他の突起等）を十分研究理解させて、しかる後、その体型に完全に合った原型を作り、その原型を活用させることにありと考えられる。そこで構成効果を挙げ得るために、どのような体型にも適合する原型作図が必要になって来るのである。現在発表されている種々の原型製図方法のいずれを用いても、標準体型以外の学生には不適當であって、補正を必要とする点が非常に多く、そのために相当の時間を費やすので、最も多く補正を要した点を、考慮して、原型の作図法を工夫して見た。

2. 作図方法とし、一般採寸方法に加えて、ショルダーポイントからウエストまでの寸法を前後共垂直に測定し（前は乳頭の位置に、後は肩胛骨の位置にいずれも水平に物差を当て、その上を通過してショルダーポイントから垂直にメジャーを垂らしてウエスト線までの寸法を測る）それぞれ前肩下り、後肩下りとし、作図して見た。

3. 上記の方法により製図した原型を使用した結果、他の各種の原型を用いた時よりも補正個所が非常に少ないことが認められたのでその結果を報告する。